

アリ、略中ツノ鳴ク聲清高ニシテ抑揚アリ、コロコロノ聲六七返モ重ヌル者ヲ上トス、其鳴聲聞ベキコト、蟋蟀ノ聲ノ厭ベキニ異ナリ、略中

蟲 略

ギス、略京キリギリス、畿内、勢州、大和本草、ハタヲリ、大和本草、コホロギ、南部ギリ、江戶

ギツ、尾州ギツ、東國原野ニ多シ、五月ヨリ鳴ク、ギイスチヨト聞ヘテ、織機ノ聲

ノ如シ、兒童樊ニ入レ、瓜ノ瓢ヲ與ヘ、自ラ鳴シメテ玩トス、雌ナル者ハ鳴カズ、尾ニ曲レルケンア

リ、綠色褐色ノ二品アリ、褐ナル者ハ岡ニオリテ能鳴キ聲高シ、俗ニアブラト呼ブ、アブラギツ、チ

ヤウ、尾州ホンギツ、アブラギリス阿州、阿州緑ナル者ハ竹林ニオリテ聲低シ、ヤブギツ、チ

ヤウ、尾州ト云、

〔天野政徳類語〕下政徳按、略中 蟋蟀、蜻蛉、共に同類ながら二種也、初秋よりころ／＼と、鈴のねの

如くなくは、こほろぎにて、形状眞黒色にて光澤有、羽にち／＼みたる文多くて、羽の下と尾、とま

りに、劔の如き物二本ヅ、四本有て、形大にして、頭より尾迄曲尺八分に強し、なく聲もころこ

ろと聞えて名義とあへり、是を今俗エンマコホロギ、また鈴なきコホロギとも呼、今一種の方

は、形状同じやうなれど、形小にして頭より尾迄曲尺五分にすぎず、色黒に少し赤を帯、羽にち

ぢみたる文少なく、羽の下に劔なく、尾のとまりに劔二本有て、なく聲キイ、引キイ、引キイ、引

聞ゆ、是を今俗きい／＼、こほろぎと呼、是則古今以下きり／＼、すと詠る物也、同類二種也、鳥む

しなどのなく、聲は、此方の心もちにて何ともき、なざる、もの也、此キイ／＼、こほろぎのな

く、聲を、おのれ心をとめて聞けば、つうづれさせ／＼と聞えて、キイキイとは不聞、それは此方

聞人の心によれり、こほろぎ、きり／＼、す共に、古き名なる事は、和名抄にてしらる、おのれは形

大なるを、コホロギ蟋蟀、形小なるを、キリウス蜻蛉と定む、されど是は親しくかひ置、形状鳴音共に、ためし見てい